

## アーツコミッション・ヨコハマ(ACY) 助成プログラム 平成 30 年度交付者 および 交付事業が決定しました

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団は、文化芸術創造都市・横浜の推進に取り組んでいます。横浜市文化観光局創造都市推進課と協働して進めるアーツコミッション・ヨコハマ事業において、2つの助成制度の交付を行います。これにより、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、横浜から新たな人材が育ち、また先駆的な活動が生まれることで、横浜の魅力が世界へ発信されることを目指します。

この度、30年度の交付者を決定しましたので、お知らせします。

### 次世代を担う若手芸術家を横浜で育成・発信 「クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ」

このプログラムは、横浜市が文化芸術創造都市の一層の推進を図るべく展開しているクリエイティブ・チルドレン構想に基づくものです。横浜から世界に文化芸術を発信する次世代のアーティストを育成し、そのキャリアアップを支援するための助成です。

1 採 択 者	9 名 (うち継続 4 件 / 申請数 51 名)
2 交付予定総額	6,000,000 円

### 創造性を生かした社会包摂の活動を支援 「クリエイティブ・インクルージョン活動助成」

共生社会の実現に向けて、アーティスト、クリエイターによる創造性を活かした社会包摂を試みる多様なプロジェクト(活動)を支援し、そのことが横浜の新たな魅力となり、世界へ発信されていくことを目指すものです。

1 採 択 事 業	6 件 (うち継続 3 件 / 申請数 30 件)
2 交付予定総額	4,500,000 円

※アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)は、(公財)横浜市芸術文化振興財団が横浜市文化観光局の補助金を受けて運営する事業です。(横浜市中区山下町 2 産業貿易センタービル 1F <http://acy.yafjp.org/>)

**※ぜひ当助成プログラムの取材、情報掲載をお願い申し上げます。**

裏面あり

お問い合わせ先 \*本日は、17:00 まで在席しております。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 広報・ACY グループ tel. 045-221-0212  
グループ長 伊東亜紀子  
担当: 杉崎栄介 (インクルージョン) / 里見有祐 (フェローシップ)

【クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ:採択者】(50音順)

採択者	<b>Aokid</b> (アオキッド) (継続)	交付金額	500,000 円
プロフィール	振付家、ダンサー。1988年東京生まれ。14歳よりブレイクダンスを始める。2010年東京造形大学映画専攻卒業。在学中より美術作品、舞台作品、パフォーマンス、イベントなどの制作、発表を始める。ダンスカンパニーなどに参加した後、aokid city を主宰。2015年、第12回グラフィック「1_WALL」グランプリ。2016年、横浜ダンスコレクション2016審査員賞受賞。野外を舞台にした”どうぶつえん”というキュレーション企画を始動する。現在、東京造形大学 cslab 勤務。		
採択者	<b>太田 信吾</b> (オオタ シンゴ)	交付金額	1,000,000 円
プロフィール	映画監督・演出家・俳優。1985年生まれ。長野県出身。早稲田大学文学部にて哲学・物語論を専攻。大きな歴史の物語から零れ落ちるオルタナティブな物語を記憶・記録する装置として映像制作に興味を持つ。初の長編ドキュメンタリー映画となる『わたしたちに許された特別な時間の終わり』が山形国際ドキュメンタリー映画祭2013で公開後、世界12カ国で配給。俳優として演劇作品のほか、TVドラマに出演。2017年には初の映像インスタレーション・パフォーマンス作品を韓国のソウル市立美術館で発表した。		
採択者	<b>小田桐 奨</b> (オダギリ ススム) (継続)	交付金額	500,000 円
プロフィール	アーティストユニット・LPACK.所属。最小限の道具と現地の素材を組み合わせ、国内の様々なスペースを「コーヒーのある風景」に変えるカフェ・プロジェクトや、各地の国際芸術祭におけるビジターのためのスペースづくり、美術館の教育普及プログラムと連動したワークショップスペースの設計など、アート、デザイン、建築、民藝などさまざまな領域を横断しながら、アーティストと鑑賞者、地域の人々とのコミュニケーションの場を創造している。		
採択者	<b>神里 雄大</b> (カミサト ユウダイ)	交付金額	1,000,000 円
プロフィール	作家、舞台演出家。1982年ペルー生まれ。近年は、世界各地を訪ね歩き、出会った人々から聞いた話を元に作品を構成するという執筆スタイルを採用している。2006年「しっぽをつかまれた欲望」(作:パブロ=ピカソ)で利賀演出家コンクール最優秀演出家賞受賞。2018年「バルバラインの長い坂をくだる話」で第62回岸田國土戯曲賞受賞。2016年10月より文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてアルゼンチン・ブエノスアイレスに1年間滞在。2011年度～2016年度公益財団法人セゾン文化財団ジュニア・フェロー。		
採択者	<b>川口 智子</b> (カワグチ トモコ)	交付金額	500,000 円
プロフィール	演出家。1983年生まれ。東京学芸大学大学院修了。劇作家・演出家の佐藤信に師事。2008年より演出活動を開始。2018年より取り組む『4.48 PSYCHOSIS』上演企画では、イギリスよりサラ・ケイン研究者のニーナ・ケイン氏をドラマターグに迎え、サラ・ケイン没後20年にあたる2019年に国内外ツアーを予定。香港をはじめ、アジアのアーティストとの共同制作も継続的に行っている。東京学芸大学非常勤講師。横浜の小さなアートセンター若葉町ウォーフ アーティストック・アソシエイト。		
採択者	<b>玄 宇民</b> (ゲン ウミン)	交付金額	1,000,000 円
プロフィール	アーティスト。東京生まれ。生まれた地を離れた人々のありようと移動の記憶、マイグレーションをテーマに韓国と日本で映像作品を制作。最近作は戦前の日本に暮らした韓国人女性飛行士の足取りを俳優と共にたどる『未完の旅路への旅』(2017)。2016年以降ソウル独立映画祭(韓国)、Taiwan International Video Art Exhibition(台湾)、ディアスポラ映画祭(韓国)で作品上映。東京大学文学部美学芸術学専修卒業。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻博士後期課程修了。		
採択者	<b>布施 琳太郎</b> (フセ リンタロウ)	交付金額	500,000 円
プロフィール	美術家。1994年東京生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻在籍。先史時代の洞窟壁画と、iPhoneをはじめとした無数の情報端末が形成する社会を接続し、イメージと支持体の関係を再考するインスタレーションや展覧会企画を発表。主な自主企画展に「秋山佑太+布施琳太郎『モデルルーム』」(Snow CONTEMPORARY)、「ソラリスの酒場」(the Cave/Bar333)、「新しい孤独」(コ本や)、「iphone mural(iPhoneの洞窟壁画)」(BLOCK HOUSE)など。		
採択者	<b>山縣 太一</b> (ヤマガタ タイチ) (継続)	交付金額	500,000 円
プロフィール	演劇ユニット・オフィスマウンテン主宰、俳優、演出家、劇作家、振付家、ダンサー。1979年、横浜生まれ。2001年より演劇カンパニー・チェルフィッチュに俳優として参加。各作品において自身の振り付けを行い、中心メンバーとしてチェルフィッチュを牽引。日常の無自覚な身体を自覚的に舞台上にのせるための独自のメソッドを考案し、ワークショップを横浜を中心に行う。2015年より自身の作・演出する演劇ユニット・オフィスマウンテンを始動。『ドッグマンノライフ』(2016)が第61回岸田國土戯曲賞最終候補にノミネート。		
採択者	<b>山本 卓卓</b> (ヤマモト スグル) (継続)	交付金額	500,000 円
プロフィール	範疇遊泳主宰。劇作家・演出家。幼少期から吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する、現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築する。近年は、マレーシア、タイ、インド、中国、アメリカ、シンガポールで公演や国際共同制作なども行ない、活動の場を海外にも広げている。『幼女X』でBangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。『その夜と友達』で第62回岸田國土戯曲賞最終候補作ノミネート。公益財団法人セゾン文化財団ジュニアフェロー。急な坂スタジオサポートアーティスト。ACC2018 グランティアアーティスト。		

【クリエイティブ・インクルージョン活動助成:採択事業】(50音順)

採択事業	<b>大人の発達障がい(仮)上映活動</b> (継続)	交付金額	1,100,000 円
主催	<b>坪田 義史</b>		
事業内容	市内在住の映画監督・坪田氏が、自身と家族を対象としたドキュメンタリー映画の上映、シンポジウム等を実施する提案。昨年度は映画を制作、今年度は、映画祭への出品や当事者などを迎えて意見公開していく上映プロジェクトを行う。		

採択事業	<b>育て！メッセンジャー事業</b> (継続)	交付金額	500,000 円
主催	<b>あしおとでつながろう！プロジェクト</b> (申請代表:伊藤 夏子)		
事業内容	横浜市内で、障がいの有無に関わらず、子どもから大人まで参加できるダンスのプログラムを実施する団体の活動。その活動の発展系として、これまで受講する側で参加してきた人達が、教える側に回る仕組みづくりを行う。		

採択事業	<b>パラフォト2018 取材プロジェクト</b>	交付金額	350,000 円
主催	<b>NPO 法人国際障害者スポーツ写真連絡協議会 (パラフォト)</b> (申請代表:佐々木 延江)		
事業内容	横浜を拠点に、障害者スポーツをモチーフとした写真その他メディアによる表現を通じて、障害の有無や世代の差、国や地域の壁を越えた視点によるコミュニケーションを行い、人と人が相互に理解しあう社会の形成を目指す団体の取組み。		

採択事業	<b>ひきこもりの部屋写真募集プロジェクト</b>	交付金額	900,000 円
主催	<b>渡辺 篤</b>		
事業内容	横浜市内で活動するアーティスト渡辺氏が、ひきこもりの方々と協働し、彼ら/彼女らの部屋の写真を募集して、写真集を作る提案。アートと福祉のジャンルを横断し、社会包摂やソーシャルデザインの要素を持ったプロジェクトを通じて、社会に存在する痛みや孤立についての可視化を行い、問題を社会に共有することを目指している。		

採択事業	<b>Future Feminism in Yokohama</b>	交付金額	350,000 円
主催	<b>Artmingle</b> (申請代表:海老澤 彩)		
事業内容	社会課題にアートを通して創造的なアプローチをするチームが、横浜市内でフェミニズムをテーマにした展覧会、リサーチ、勉強会をする提案。時代と共に変化していくフェミニズムという言葉が持つイメージについて、国際的な視点、アートの視点を交えて日本社会と共有していくプロジェクト。		

採択事業	<b>YOKOHAMA KOTOBUKI INSIDE</b> (継続)	交付金額	1,300,000 円
主催	<b>有限会社スタジオニブロール</b> (申請代表:矢内原 充志)		
事業内容	寿町のすぐ近くに仕事場があるファッションデザイナー矢内原氏が、寿町に暮らす、働く、出入りする人達と対話し、服をデザインする。そのデザインをブックレットや展覧会、WEBメディアという形で発表する。全てを等しく内包していく創造性を“ファッション”で表していく創作活動。		